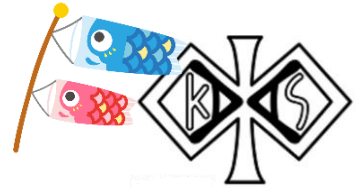


加 佐

5月号

令和8年5月1日

舞鶴市立加佐中学校



<https://kasa-maizuru.edumap.jp/>



「コミュカって、何だろう？」



ある日、学級でこんな問いかけをしました。「コミュカって、よく使う言葉だけど、どんな場面、どんな力のことなんだろう？」子どもたちは少し困った表情を見せながらも、一生懸命ことばにしようとしていました。1年生のコメントには、「誰とでも話せる」「場を盛り上げる」「誰とでも仲良くできる」など、短いながら素直でやさしい言葉が並びます。2年生は、これまでの積み上げが感じられる「聞く力」とか「目を見て話すこと」、「周りを見る。待つことができる。」などスキルとして捉え始めています。3年生は「相手の気持ちを考える」、「相手を思いやりながら・・・」と関係性に視点が向いていることが興味深い。「ちょっと聞き方（問い）が抽象的すぎたかな」とも思ったけど、コメントを読んで「子どもたちが考え始めた証拠」とも感じました。

数年前からスクールカウンセラーと協働して、計画的・連続的なコミュニケーション学習に取り組んでいます。ペアワークを中心に、楽しみながら関わり合う活動を多く取り入れ、学級に笑顔と笑い声が増えています。一方で、ふと立ち止まって考えました。私たち（おとな）は「コミュニケーションの力を育てたい」と言いながら、その中身をどこまで言葉にできていただろうか、と。

「コミュカ」と聞くと、「話が上手」、「誰とでもすぐ仲良くなれる」そんな姿を思い浮かべるでしょう。しかし学校が大切にしたいのは、それだけではありません。言葉がすぐに出てこない子、考えてから話したい子、うまく話せず黙ってしまう子にも、それぞれのコミュニケーションの力があるからです。

コミュニケーションの力は、大きく四場面に分けて考えられます。

- ①「相手の話を受け取る力」：最後まで聴く、表情や言葉の裏にある思いを感じ取ろうとする力
- ②「自分の思いや考えを伝える力」：上手に話すことよりも、言葉にしようとするのが大切。
- ③「やり取りを続け、関係をつくる力」：うなずく、問い返す、違いがあっても対話をやめない姿勢
- ④「自分の関わり方を振り返る力」：「さっきの言い方はどうだったかな」「次はこうしてみよう」相手とのやり取りをあとから見つめ直す力です。

この四場面は連動して成立するから、部分的に鍛えるものでもないし、教科書どおりにもいきません。生活の中で、人と関わりながら、獲得し深めていくものなのです。（実生活ではノンバーバル（非言語）コミュニケーションが重なるので、さらに深まります。）

1年生をみていると「小学校でたくさんの経験・体験をさせてもらったんだな。」と思える伸びやかさを感じます。中学生になると、そこに「なぜうまくいかなかったのか」「どうすればよかったのか」に気づいて分析・改善する力が備わります。今、みんなが戸惑いながら言葉を探している姿は、その入り口に立っている。おとなはその時を見逃さず「意図をもって」関わりたい。

校長は「非認知能力だ！コミュニケーションだ！」と掲げてはいるけれど、どうすれば「コミュカが高まるか？」実は悩んでいます。子どもたちと一緒に問い続ける一年にしたい。

ご家庭や地域でも、子どもたちの「うまく話せない時間」を、成長の途中として「意図をもって」あたたかく語りかけてください。